

プレスリリース

2019年11月8日

国境なき医師団 (MSF)

イエメン：国境なき医師団の病院が空爆被害で機能不全に——患者・スタッフは全員無事

イエメン南西部のモカで 11 月 6 日夕方（現地時間）、国境なき医師団（MSF）が運営する病院が近隣への空爆によって、大きな被害を受けた。この空爆により薬局は焼け、事務所の建物も破壊、被害の詳細は今後の実地検証で明らかになる見通しだが、院内の医療活動は中断している。MSF 医療チームの一部は、アデンに拠点を移す予定だ。MSF は改めて、全ての紛争当事者に対して、あらゆる手段で医療機関を保護する義務があると訴える。

MSF スタッフと患者 全員無事

空爆を受けた当時 MSF 病院にいた患者約 30 人とスタッフ 35 人は、すぐに避難したため、死傷者はいなかった。容体が安定していた患者の大多数は自力で敷地を離れることができたが、新生児 2 人と重篤な患者は、MSF チームによってモカ市内にある別の病院に搬送された。

爆発とその後の火災で MSF 病院施設は大きな被害を受け、さらに続く空爆で周辺にあった軍の倉庫が直撃を受けた。今後の実地検証で発電機がある機械設備棟を含め、被害の詳細を明らかにする見通しだ。現場には不発弾が残っている危険性があり、撤去を行わない限り活動再開は難しい。

「患者とスタッフがけがしなかったのは幸運に過ぎず、大惨事もありえました」と、イエメンのオペレーション・マネジャーのキャロリン・セガンは話す。「病院が機能不全となった今、緊急救命を必要とする状況にもかかわらず、現地の人びとは医療を受けられなくなりました」

モカで唯一の無償診療を担う病院

MSF は 2018 年 8 月、今回空爆を受けた MSF 病院を開院。モカ地域では唯一の無償診療の民間病院として、紛争による負傷者に救急外科手術を行っていたほか、合併症を伴う分娩時の帝王切開などの緊急処置を担っていた。ベッド数は 35 床あり、2019 年は既に計 1787 人の患者がこの病院に入院、2476 件の外科手術を行った。うち 201 件は帝王切開であった。

2018 年の開院以来、MSF は全紛争当事者と当局に対し、病院の位置情報を伝えており、全ての紛争当事者は病院位置を認知していた。MSF は改めて、全ての紛争当事者に対して、あらゆる手段を持って、医療機関を保護する義務があると訴える。

MSFは1986年にイエメンで活動を開始。現在は11県に散在する12病院で医療援助活動をしているほか、20カ所余りの医療機関を支援している。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：那須 真澄

TEL：03-5286-6156 FAX：03-5286-6124

E-mail: press@tokyo.msf.org <http://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press